

# 企画県土警察常任委員会資料

(平成22年4月21日)

## 【その他報告事項】

- 1 第7回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）の評価結果について  
【文化政策課】 . . . 1ページ
- 2 鳥取県・バーモント州青少年交流事業の実施結果について  
【交流推進課】 . . . 3ページ
- 3 ロシア沿海地方における「鳥取県文化デイズ」の開催結果について  
【交流推進課】 . . . 4ページ
- 4 ようこそようこそ鳥取県運動取組指針に係るパブリックコメントの  
状況について  
【観光政策課】 . . . 6ページ
- 5 世界ジオパークネットワーク委員の現地審査日程等について  
【観光政策課】 . . . 8ページ
- 6 「まんが王国とっとり」推進協議会の設立について  
【観光政策課】 . . . 9ページ
- 7 米子-ソウル国際定期便及び環日本海貨客船航路の平成21年度利用  
実績について  
【国際観光推進課】 . . . 10ページ

文化観光局

# 第7回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）の評価結果について

平成22年4月21日

文化政策課

第7回とりアート（鳥取県総合芸術文化祭）（平成21年9月19日～11月30日）について、評価委員会（植田 丞 座長ほか14名）が事業評価を行い、評価報告書として取りまとめました。

## 1 評価の目的

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭の基本方針に基づき、公的資金を活用した本文化祭の存在意義を明らかにするとともに、県民にその成果と課題を報告する。
- (2) 年度ごとに本文化祭の事業を見直し点検することで、より良質な作品創造や効率的な運営方法を確立する。

## 2 評価の実施概要

- (1) 総合芸術文化祭実行委員会委員、スタッフ等事業を実施する者による自己評価の実施
- (2) 観客・実施者の満足度等のアンケート調査、評価委員会委員による実地検証に加え、今後の良質な作品創造の促進や人材育成のため専門家に評価を依頼
- (3) これらをもとに、評価委員会において総合芸術文化祭の評価結果を取りまとめ
- (4) 評価結果は、「鳥取県総合芸術文化祭ホームページ」(<http://www.artsfriend.com/sogeisai/>)へ掲載

## 3 第7回とりアート（総合芸術文化祭）の総合評価の概要

### (1) 第6回（平成20年度）総合芸術文化祭評価報告書で指摘された課題と改善点

- ① 「飛躍期」に入って事業の質はレベルアップしたか
- ② 県民の自主的な芸術文化活動は尊重されているか
- ③ 指導者養成を含め、各種の環境整備は進んでいるか
- ④ 「とりアート」の開催方法と時期の見直しについて
- ⑤ アートマネジメント力の育成と醸成について

- ・ 上記の諸課題はいずれも短時間で達成するのは難しく、年毎に事業を検証・検討して改善を図りながら追求していくべき課題であり、その努力と蓄積が「とりアート」のレベルアップになるのではないかと。
- ・ 西部地区で行われたメイン事業「新・朝日座」新歌舞伎「名和長年」は、平成16年度から18年度まで米子コンベンションセンターで行われた「朝日座」事業を継承。米子市公会堂に芝居小屋の雰囲気づくりがなされ、存続危機を抱えている地歌舞伎など地域文化の継承への刺激を与えた。
- ・ メイン事業の開催のあり方について、十分な練習期間をとり、内容を充実させるために、単年度方式から隔年度方式に見直されたことは評価できる。しかし、その企画・期間・レベルなど基本的なあり方を検討することを重ねて提起する。
- ・ 公募で選ばれた地区で活動するアーティストによる「キラリ☆アートプロジェクト(※)」の3事業は、いずれも作品の質・芸術性も担保され、観客の満足度も高く、一定のレベルに達していて、アートマネジメント力の成果を見ることができた。

※ 県民から演劇、音楽などの文化芸術の企画を公募し、総合芸術文化祭実行委員会が委託する事業。

### (2) 第7回（平成21年度）総合芸術文化祭の総合評価

- ・ 参加人数は着実に増加しており、関係者の努力は認められるが、県民の「とりアート」の認知度は必ずしも高いとは言えない。粘り強い広報活動が必要であり、市町村との連携も課題である。
- ・ 男性と20代の鑑賞者発掘と拡大は「とりアート」に限らず日本の文化芸術の課題であり、若者が参画できる環境整備のため教育機関との連携が必要である。

### (3) 今後の展望と課題

- ・ 「とりアート」が歩み始めて7年目、多くのことを性急に求めるのは酷であり、長い目で見て育て上げていかなければならない。
- ・ この6年間「とりアート」は改善を重ね、ノウハウも蓄積し、人も育ち、一定の成果をあげてきていると思う。
- ・ メイン事業のあり方が課題。大規模なものでもなくとも、「キラリ☆アートプロジェクト」の企画のような作品をメインに据えれば質・芸術性も担保できる。
- ・ 評価が高く好評だった過去の作品の再演も検討すべきである。
- ・ 芸術性か大衆性かの議論もあるが、県民誰もが参加できるイベントをめざしている「とりアート」を考えると両方を追求していく必要がある。
- ・ 「とりアート」のレベルアップを図るにはアートマネジメント力が欠かせず、アートマネージャーの育成が重要である。本県の文化芸術活動の充実・発展のために、現場経験を積んでアートマネジメント力を高めていただきたい。
- ・ 広報については、何をいつ頃、どう効果的に訴えて事業を知ってもらうか、事業が多彩なだけにさらに工夫を凝らす必要がある。
- ・ 中海圏域の4市1町が行政、経済、観光、環境などでの広域連携を模索しており、文化芸術面でも中海文化圏を視野に入れ、観光面と結びつけて展開できないか検討すべきである。

総合芸術文化祭実行委員会では、評価委員会座長から本報告を受け、指摘された課題等について本年度以降の事業実施を進める上で改善につなげていきます。

# 鳥取県・バーモント州青少年交流事業の実施結果について

平成22年4月21日  
交 流 推 進 課

環境に対する深い認識と国際的視野を持った青少年の育成を図るとともに、本県とバーモント州との更なる交流を促進するため、県内の高校生等をバーモント州へ派遣した結果は次のとおりです。

## 1 事業内容

バーモント州の民間環境交流団体 GATP 及び現地高校（ハーウッドユニオン高校、マウントアブラハム高校）が受入団体となり、ホームステイなどを通じて生きた英語に触れながら、教育、文化、生活習慣を学ぶとともに、現地の高校生とともに環境学習や交流活動を行った。

### (1) 派遣期間

平成22年3月18日（木）から同月30日（火）まで

### (2) 主な日程

期 日	内 容
3月20日	現地高校におけるオリエンテーション、市内視察、歓迎会参加
3月21日	ホストファミリーとの交流
3月22日	現地高校において学校生活を体験
3月23日	バーモント大学訪問、環境に配慮した科学館や企業の視察
3月24日	州政府訪問（副知事・総務長官表敬）、州議会視察、環境に配慮した農場視察
3月25日	キーピング・トラック（森を散策し野生生物の形跡を探索）
3月26日	現地高校において学校生活を体験
3月27日	成果発表会（チーム毎に企画したエコ住宅モデルの企画提案）及びお別れ会

### (3) 派遣人数

高校生 13名（鳥取西2名 鳥取湖陵1名 八頭2名 倉吉東1名 中央育英1名 米子東2名 湯梨浜学園2名 米子松蔭1名 鳥取敬愛1名）

鳥取環境大学生 2名

随行 6名（鳥取環境大学教授1名、県教委2名、交流推進課3名） 計 21名

### (4) 受入団体について

GATP（Green Across The Pacific）とは、世界の国々との交流を通じて文化的理解と環境に対する認識を深めることを目的としているバーモント州内の民間環境交流団体で、1997年から主に中国との青少年相互交流を行っている。

## 2 概要・成果

- ・両地域の学生で2名1組のチームを作り、事前に研究テーマを掲示（「安価なエコ住宅モデルの設計」）。派遣前の意見交換や現地での環境関連施設の視察、学校活動、ホームステイなどを通して具体的なアイデアを議論し、それぞれ各組ごとに成果を英語で発表した。最後の成果発表会及びお別れ会の際には、ホストファミリー、地元高校の教員など関係者あわせて約100名という多くの方に参加していただき、バーモント州側の本事業への関心の高さが感じられた。
- ・8日間という短い期間ではあるが、ホームステイにより寝食を共にし、現地の学校で同じ授業を受けるなど学校生活を共有することにより、教育・文化・生活習慣など日米の共通点や相違点を発見することができた。また、バーモントの生徒やホストファミリーと深い絆を築くことができた。
- ・今回の派遣中に、受入れていただいた高校や州政府幹部とも協議を行う中で、鳥取県への生徒派遣や学校交流について強い要望もあり、より幅広い交流に向けて引き続き協議していきたい。

# ロシア沿海地方における「鳥取県文化デイズ」の開催結果について

平成22年4月21日  
交 流 推 進 課

ロシア沿海地方において「鳥取県文化デイズ」を開催したところ、結果は次のとおりでした。

## 1 「鳥取県文化デイズ」概要

(1) 日時：平成22年3月27日(土)～29日(月)

(2) 場所：ロシア沿海地方(ウラジオストク市、ウスリースク市)

### (3) 派遣団構成

○和楽器&洋楽器演奏団「らいぶはうす823&箏・てまり会」《8名》

(琴・三弦2名、尺八1名、三味線1名、和太鼓兼ボーカル1名、エレキギター1名、エレキベース1名、ドラム1名)

○生け花団《6名》

(小原流講師：2名、池坊講師：2名、嵯峨御流講師：2名)

○因州和紙ちぎり絵団《2名》

(立体ちぎり絵の講師：2名)

### (4) 主な日程

期 日	内 容
3月27日(土)	13:00～14:00 開会式(沿海地方国立博物館)
	14:30～16:00 立体ちぎり絵体験教室(沿海地方国立博物館)
	15:00～17:00 生け花講習会 (ゴリキー図書館及び沿海地方児童図書)
	18:00～19:30 音楽交流会(芸術アカデミー)
3月28日(日)	11:00～15:00 各派遣団のすべての行事 (ウスリースク子ども芸術学校)
3月29日(月)	19:00～20:50 音楽コンサート(フィラルモーニアホール)

## 2 結果概要

・全体を通して予定参加者をオーバーする盛況ぶりで、行事開催機関、ロシア人参加者から、鳥取県に対する謝意が述べられ「またこのようなイベントを是非行ってほしい」、「鳥取県に是非行ってみたい」との感想が数多く聞かれ、ロシア沿海地方住民に対する鳥取県PRの良い機会となった。現地テレビ及び新聞においても各行事別に数回にわたり報道された。

### (1) 和楽器&洋楽器演奏

・3月29日に、ウラジオストクにおいて最も格式がある「フィラルモーニアホール」でコンサートを実施。600席ある会場は満席になり、立見が出る盛況ぶりであった。演奏会では、純邦楽、ロック、和楽器と洋楽器のコラボレーションによる演奏が行われ、「貝殻節」、「しゃんしゃん祭」、「ふるさと」の鳥取県ゆかりの曲も演奏された。演奏会を鑑賞したロシア人からは「すばらしい演奏に心から感謝する」、「鳥取県に是非行ってみたい」、「鳥取県を訪問して本場の文化に触れてみたい」などの感想が口々に述べられた。

・芸術アカデミー、ウスリースク音楽学校においても、コンサート及び音楽交流が実施され、ロシア人とのセッション、合唱、和楽器体験などの音楽交流を行った。

## (2) 生け花

- ・鳥取県立図書館と交流しているゴーリキー図書館及び沿海地方児童図書館並びにウスリースク子ども芸術学校において講習会を実施した。いずれの会場も体験教室参加者のみならず、見学のみのも来場者も数多く参加。
- ・参加したロシア人の子どもから「それまで日本文化にも特に関心がなく、鳥取県についても知らなく、友達に連れられたので仕方なく講習会に来たが、生け花を体験してみて日本文化及び鳥取県に大変興味を持った。これからは、生け花だけでなく、他の日本文化及び鳥取県についても勉強してみたい」という発言が寄せられた。

## (3) 因州和紙ちぎり絵

- ・「ちぎり絵」27作品、「立体ちぎり絵」35作品を沿海地方国立博物館に展示したところ、ロシア人から作品の素晴らしさに対する驚きの声が多数寄せられた。
- ・「立体ちぎり絵」体験教室も実施したが、ロシア人の関心は高かった。参加したロシア人からは、自分達がちぎり絵を頑張って勉強して、沿海地方の住民にちぎり絵の魅力を広めていきたいとの発言があるなど、ロシア沿海地方における因州和紙及び同和紙を利用したちぎり絵普及の足がかりができた。

## 3 今後の予定

- ・平成22年度「ロシア沿海地方交流推進事業」において、ロシア沿海地方における「鳥取県文化デイズ」を引き続き実施するとともに、「鳥取県における沿海地方週間」も開催する。これら行事を通じて鳥取県と沿海地方の交流関係発展と相互理解の促進に努めていく。

# ようこそようこそ鳥取県運動取組方針に係るパブリックコメントの状況について

平成22年4月21日  
観光政策課

鳥取県の観光振興を総合的に推進していくための方向性を提示する「ようこそようこそ鳥取県運動取組指針(案)」について、パブリックコメントを行った結果は以下のとおりです。

## 1 意見募集期間

平成22年3月24日(水)から4月14日(水)まで

## 2 提案件数

電子メール	ファクシミリ	郵便	その他	計
11	4	2	4	21

## 3 主な意見及び対応方針

	意見内容	対応方針
仕組みづくり	観光に従事する行政担当者観光事業者は、この県民運動を理解して当然。鳥取県に住んでいる人達に県外国外観光者を心よく受け入れる仕組みづくりが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民が一体となって本県の観光振興を推進していくため推進協議会を設置するが、観光振興の取組は、地域における創意工夫に基づいて主体的に行われることが基本である。</li> <li>・このため、市町村や地域の自発的な取組を促進するよう努める。</li> <li>・国外からの観光客の受入促進については、国際観光アクションプログラムを策定しているところである。</li> </ul>
推進体制	協議会を組織し実施することにより、各取組主体の自由な活動が制約されることになったり、現段階ではまだ推進できないことに取り組むことにより、地域に無理を生じさせることになりかねない。 また、協議会は各々が意見を言うだけの会となってしまうのではないか。	
市町村及び県の役割	市町村の役割に、「・・・県が実施する観光の振興に関する施策に連携・協力するよう努める。」とあるが、「・・・各地域における県民、観光業者、観光関係団体が実施する施策に連携・協力するよう努める。」ではないのか。逆に、県の役割は、「県民、観光業者、観光関係団体、市町村が実施する観光の振興に関する施策に連携・協力する。」ではないか。	市町村及び県の役割について、意見内容を加える。
受動喫煙対策	おいしいきれいな空気が保証されなければ、観光客に温かな心配りにはならないため、受動喫煙の防止が必要不可欠なものと思う。路上喫煙・タバコのポイ捨ての禁止、飲食店や土産物屋、観光スポット、観光イベントでの喫煙禁止、ハイヤー・タクシーの禁煙化も必要不可欠である。	県としては健康づくりの一環として公共施設や飲食店等に分煙、禁煙の働きかけを行っているところであるが、さらに、観光関係団体にも働きかけを行う。
JRクーポンの利用	JR利用で鳥取に来る方はほとんど智頭線を利用されるが、JR全線使用可能な高齢者専用クーポン等では、智頭急行はJRとは別会社であることから、智頭線利用時に差額が必要となる。鳥取への旅行を制限するようなことになるので、差額を取らない工夫をしてほしい。	フルムーン夫婦グリーンパスなどについては、JR6社間の調整が困難なことから、第3セクター等の別会社の区間では利用できないことになっているが、今後もJRに対して利用できるように働きかけを行っていきたい。

<参考>

ようこそようこそ鳥取県運動取組指針(案)の骨子

1 我が国の観光の動向

- (1) 社会環境の変化
  - ・ 国内の旅行者数の減少(少子高齢化、海外旅行の増加、不況の長期化など)
  - ・ 国際交流の進展(東アジア地域の経済発展と交流の加速、訪日旅行者数の増加など)
- (2) 旅行形態の変化、観光ニーズの多様化
  - ・ 団体旅行から個人・少人数旅行へ、見学型から体験型、本物指向へ

2 鳥取県の観光の現状

- (1) 観光に関する指標の推移
  - ・ 入込客数の推移は、ここ数年 9,000 千人程度で推移、入湯客数は 1,549 千人(H10年)→1,132 千人(H20年)と減少
  - ・ 外国人宿泊者数(国の宿泊統計 H20年の外国人延べ宿泊者数 14,890人 全国で46位)
- (2) 大交流時代(交通網の整備、グローバル化)
  - ・ 鳥取県と国内他地域を結ぶ高速交通網の整備(鳥取自動車道の整備等)
  - ・ 鳥取県と東アジア等を結ぶ交通基盤の発達(米子-ソウル便、国際定期貨客船就航、米子空港2500m化)

4 ようこそようこそ鳥取県運動推進協議会(3月23日設立)

- (1) 会長 中島 守(社団法人鳥取県観光連盟会長)
- (2) 構成員 ようこそようこそ鳥取県運動の趣旨に賛同する個人、団体(市町村、観光協会、観光事業者等)
- (3) 役割等 本県の観光の状況・課題及び取組方向の確認  
優れた取組事例の報告及び顕彰  
あいさつ運動、美化運動等の奨励(集中推進月間の設定など)  
観光振興に向けた県民イベント・講演会等の開催 等

5 目標

観光入込客数	9,054千人(平成20年)	→	10,000千人(平成26年)
入湯客数	1,132千人(平成20年)	→	1,350千人(平成26年)
延べ宿泊者数	1,823千人(平成20年)	→	2,200千人(平成26年)
外国人宿泊者数	14,890人(平成20年)	→	45,000人(平成26年)
観光消費額	947億円(平成20年)	→	1,200億円(平成26年)

6 今後の基本的な方向と具体的な取組

協議会に参加する各構成員は、今後、以下の取組を進める。

基本的な方向	具体的な取組 ※ゴシック部分は、今後、県として特に充実させていく取組
地域の観光資源の認知と継承	・ 観光地の維持・保全活動の推進、伝統文化・行事の継承 ・ 地域の観光資源を学ぶための学習会等の開催 等
観光資源の磨き上げと新たな形態の観光の普及促進	・ 地域のやる気を促進する啓発活動・顕彰事業の推進 ・ 観光ニーズに対応した地域ならではの観光メニューづくり ・ 農業などこれまで観光活用されていない他産業の観光活用の推進 等
各種会議、展示会等の県内開催誘致	・ コンベンション等の誘致活動の積極的展開 ・ 地域でのコンベンション等の受入・支援体制の充実 等
すべての人々が安心して快適な観光を楽しめる環境の整備等	・ 分かりやすい案内標識の整備など障がい者や高齢者、外国人等が快適で安全に旅行できる環境整備 ・ 幹線交通網から観光地までの二次交通の整備の推進 等
観光客に対するもてなしの向上	・ 観光地での美化運動や挨拶運動の推進、もてなし向上のための学習会の開催 ・ ボランティアガイドの育成・組織化の推進 等
観光情報の戦略的な発信	・ 観光プロモーターの配置、観光説明会等の開催によるセールスプロモーションの強化 ・ パブリシティの活用やインターネットなど多様な広報媒体を通じたタイムリーな観光情報提供 ・ 誘客キャンペーンの展開、観光パンフレット・観光マップ等の充実 ・ 鳥取県ゆかりの人を通じた情報発信による鳥取県ファン拡大の推進 等
外国人誘客の促進	・ 多言語標示による案内標識の設置、外国語によるガイドの養成など受入体制の整備の推進 ・ 外国の旅行会社への旅行商品造成の働きかけなどの誘客活動の推進 ・ 本県の魅力の海外への情報発信の強化 等
観光に関する人材の育成・資質の向上	・ 観光メニューづくりやまちづくりの専門家の活用 ・ 地域での研修活動等を通じたリーダーの育成 等
観光客の周遊性・滞在性を高めるための広域連携の推進	・ 山陰海岸ジオパークの推進による京都府、兵庫県との連携 ・ 山陰文化観光圏事業による鳥根県との連携 ・ 関西広域連合の枠組みによる広域連携 等



## 世界ジオパークネットワーク委員の現地審査日程等について

平成22年4月21日  
観光政策課

### 1 現地審査日程等

(1) 審査日程 平成22年8月1日から3日までの3日間

(2) 現地審査委員 世界ジオパークネットワーク委員2名  
・パトリック・マッキーバー氏 (イギリス)  
・ニコライ・ゾロス氏 (ギリシャ)

\*2名とも糸魚川ジオパークの現地審査員と同一人物。

\*平成22年10月上旬開催予定の世界ジオパークネットワークの会合で加盟認定が審査される見込み。

\*外国人対応ガイド(非常勤職員)として配置した砂丘事務所の1名(3月1日付)、山陰海岸学習館の1名(3月16日付)も対応予定。

### 2 山陰海岸ジオパークの世界へ向けた決起大会の開催

(1) 趣旨

8月1日から3日に実施される世界ジオパークネットワーク委員による現地審査に向けて、ボランティアガイドなど関係者の士気の高揚と県民の機運醸成を図る。

(2) 開催日

平成22年4月24日(土)

(3) 場所及び内容

<第1部>ホテルモナーク(10:00~)

・ジオガイド・ボランティアガイド代表者による活動報告及び決意表明(ジオガイド・ボランティアガイド代表)

・加盟認定に向けたアピール(山陰海岸ジオパーク推進協議会学術顧問西田良平氏)

・記念講演(講師:糸魚川ジオパーク 竹之内 耕氏)

<第2部>ジオパーク拠点施設(13:00~)

・山陰海岸学習館、渚交流館、鳥取砂丘ジオパークセンターの視察

### 3 山陰海岸ジオパークプロジェクトチームの設置(緊プロ)

(1) 目的

8月1日から3日に世界ジオパークネットワーク委員の現地審査が実施される山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟を実現するため、関係部局が連携して対応準備を早急に進める。

(2) 主な取組内容

- ①外国人対応のジオガイドの養成など受入態勢の整備
- ②ジオパーク拠点施設やジオスポット案内看板の整備
- ③ジオツアーの造成等
- ④ジオパーク学習会の開催など住民等の意識向上

(3) 構成メンバー

観光政策課、広報課、交通政策課、国際観光推進課、交流推進課、公園自然課、砂丘事務所、道路企画課、小中学校課、家庭地域教育課、博物館、東部教育局、東部総合事務所

\*事務局:観光政策課山陰海岸ジオパーク推進室

# 「まんが王国とっとり」推進協議会の設立について

平成22年4月21日  
観 光 政 策 課

本県は、まんがを切り口とした観光客誘致に取り組んでいるところですが、平成24年開催の第13回国際マンガサミットの国内候補地に選定されるなど、今後、様々な取り組みを検討していく必要があります。

このような中、まんがをキーワードとした地域づくりや観光客誘致を更に促進するため「まんが王国とっとり」推進協議会を設立し、国際マンガサミット開催に向けた機運醸成や国内外での情報発信等を実施していきます。

## 1 設立総会の概要

(1) 日時 平成22年3月29日 (月)

(2) 場所 ホテルニューオータニ鳥取

(3) 協議内容

ア 協議会規約及び役員について

イ 「まんが王国とっとり」の推進体制及び今後の取組みについて

ウ 国際マンガサミットの概要について

(4) 出席者の主な意見等

- ・料理教室やまんが教室など、まんが家と地域住民とが交流できるようなイベントを計画して欲しい。(倉田よしみ先生)
- ・鳥取市のわらべ館で「谷口ジロー」展を開催中である。谷口先生から国際マンガサミットへの協力について前向きな返事をいただいております。今後、取組みを検討していく。
- ・来場者に県内各地を周遊してもらい、長期滞在してもらいたい。
- ・外国人対応(外国語パンフレット、ガイド等)をより一層充実していきたい。

(5) 組織体制

顧問：アジアMANGAサミット運営本部 代表 里中満智子氏

アジアMANGAサミット運営本部 まんが家 倉田よしみ氏

会長：とっとりコンベンションビューロー専務理事 長谷川泰二氏

会員：明治大学リバティーアカデミー、水木しげる記念館、青山剛昌ふるさと館、観光事業者、旅行会社関係者、商工関係者、農業関係者、市町村等

## 2 今後の主なスケジュール

時期	実施内容
H22. 4～6	「まんが王国とっとり」漫画ロケ地ガイドの英語版、中国語版、ロシア語版の作成(韓国語版、台湾語版は作成済)
H22. 夏～秋頃	講演会(フォーラム)を開催し、国際マンガサミット誘致に向けた機運醸成及び「まんが王国とっとり」のイメージ浸透を図る。
H22. 7. 28～8. 2	台北漫画博覧会(台湾)に出展
H22. 8. 19～22	上海国際博覧会の日本館で「まんが王国とっとり」のPR展示を実施
H22. 9. 15～19	富川(プチョン)国際漫画祝祭(韓国)に出展
H22. 秋頃	第11回国際マンガサミット韓国大会で2012年の開催地決定(予定)

# 米子-ソウル国際定期便及び環日本海貨客船航路の平成21年度利用実績について

平成22年4月21日

国際観光推進課

## 1 米子-ソウル国際定期便の利用実績

### (1) 平成21年度利用実績 (アジアナ航空山陰支店提供)

提供座席数	搭乗座席数	搭乗率
53,834席 (48,880)	32,406席 (30,478)	60.2% (62.4)

(注)下段カッコ内は前年度実績

#### (搭乗者の内訳)

日本人	韓国人	その他	計
19,644人 (60.6%)	12,326人 (38.0%)	436人 (1.4%)	32,406人 (100%)

- ・搭乗座席数は、昨年度を約2,000席上回り、過去2番目に高い利用実績となった。
- ・年度前半は新型インフルエンザの影響で利用が伸び悩んだが、山陰両県官民挙げての利用促進や韓国でのホームショッピング旅行商品の販売が好調だったことなどから、年間搭乗率は2年連続60%台となった。

### (2) 平成22年4月以降の予約状況 (4月15日現在)

4月…68.6% (前年同期 55.3%)、5月…44.0% (前年同期 39.1%)

### (3) 平成22年度の主な利用促進対策

路線の安定・自立に向け、引き続き山陰両県の官民で構成する「山陰国際観光協議会」による事業を中心に利用促進を強化。

#### 【アウトバウンド対策】\*主な変更点

- ・グループ旅行に対する経費支援を拡充  
支援対象を8人以上から4人以上のグループに拡大  
第3国への乗り継ぎ利用については割増支援

#### 【インバウンド対策】\*主な変更点

- ・グループ旅行(県内宿泊を伴うもの)に対するバス経費支援を山陰両県で新設

## 2 環日本海貨客船航路(境港~東海間)の旅客利用実績

### (1) 平成22年6月29日~平成22年3月末の乗客人数 (DBSクルーズフェリー社提供)

日本人	韓国人	ロシア人	その他	計
3,787人 (16.7%)	17,719人 (78.0%)	1,057人 (4.7%)	142人 (0.6%)	22,705人 (100%)

- ・境港~東海間を延べ146便運航し、1便当たりの平均乗客数は156人となった。  
(国別平均乗客数 日本人 26人、韓国人 122人、ロシア人 7人、その他 1人)
- ・アウトバウンドは、期間前半パッケージ旅行商品の販売が好調で利用が伸びたが、12月以降パッケージ旅行商品が途絶え利用が落ち込んだ。
- ・インバウンドは、韓国については就航当初から大山登山ツアーをはじめとする旅行商品の造成・販売が進み韓国人客の利用は好調であった。ロシアについては個人客を中心に徐々に利用が伸びている。

### (2) 平成22年度の主な利用促進対策

上記の実績を踏まえて、本県(文化観光局)独自及び山陰国際観光協議会等の関係機関との連携・協力による利用促進を実施。

#### 【アウトバウンド対策】

- ・旅行会社、DBSクルーズフェリー社に対する旅行商品の造成・充実の働きかけ
- ・県内外の学校、団体等に対する修学旅行・団体旅行利用の働きかけ など

#### 【インバウンド対策】

- ・韓国、ロシアの旅行会社に対する旅行商品の造成・充実及び団体送客の働きかけ
- ・韓国、ロシア等への山陰・鳥取の観光情報発信 など